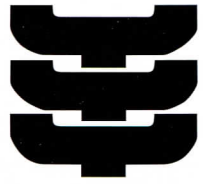


平成13年 3月



米沢市文化財年報

No. 13

文化財愛護シンボルマーク

米沢市教育委員会



台ノ上遺跡第7次調査区遺構全景（空中写真）



台ノ上遺跡出土遺物（深鉢形土器）



埋 蔵 文 化 財

平成12年度に、埋蔵文化財に関する調査依頼を受けたのは約100件であり、試掘調査を実施したのは70件でした。このうち緊急発掘調査の対象として記録保存を実施した遺跡は、台ノ上遺跡、上浅川遺跡、米沢城跡、大浦B遺跡の4遺跡で、他に学術調査として成島古墳群M1号墳の発掘調査を実施しました。この内、今年度、特に成果が注目された台ノ上遺跡、成島古墳群M1号墳について概要を述べます。

台ノ上遺跡「吾妻町地内」

約19万㎡に及ぶ縄文時代の中期中葉期を中心とする大規模な集落跡で、他に縄文前期末から中期初頭の遺跡も分布しています。米沢市内の縄文中期中葉期に属する遺跡は、約40箇所が確認されており、その中でも台ノ上遺跡は最大規模をなしております。

遺跡は松川によって形成された自然堤防上に位置していますが、この地形は、旧松川が東西



大型竪穴住居跡

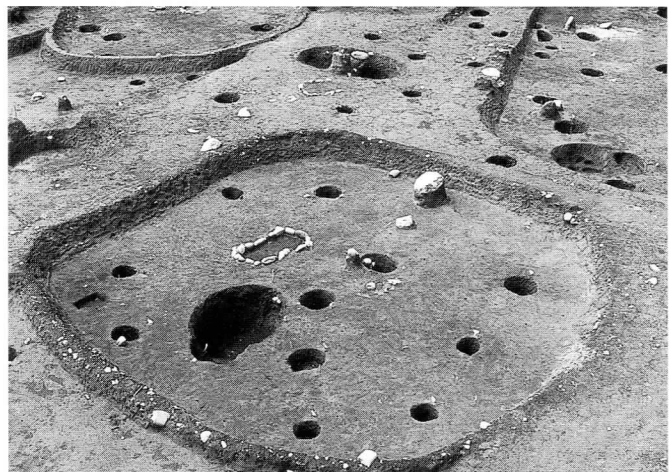
に別れて流れたことによって形成された大地です。当時は、川が大地を囲むように左右に流れる恵まれた環境にあったと考えられます。従って、遺跡は丁度、河川で区画された中州状の地形を利用して集落を構成したものと想定されます。

遺跡の発見は、JR米坂線の工事の際に遺跡の台地を削り平らにして土砂を運搬した時に多量の土器が出土したことが最初の発見と伝えられています。記録によれば、米坂線の工事は大正11年（1922）から大正15年の期間で、最初の年に米沢市から広幡村まで開通し

ており、この工事期間に遺跡が発見されたものと考えられます。こうして発見された遺跡には、多くの研究者や考古学愛好者らが遺物の採集や試掘、発掘調査が試みられています。

発掘調査としては昭和37年に米沢女子高等学校による遺跡南側の調査、昭和45年の置賜考古学会の遺跡北西部の調査が行われて、竪穴住居跡や炉跡、土壇、墓壇の遺構と多量の遺物が発見されています。

平成7年と平成8年には米沢市教育委員会が個人の土地基盤整備に伴う緊急調査として約3,000㎡を対象に発掘調査を実施しています。この2か年の調査では大型竪穴住居跡3棟を含む竪穴住居跡58棟、土壇、墓壇309基が環状に配置されていることが確認されており、土偶125点、完形土器などの遺物約20万点が出土しています。



石組炉を持つ竪穴住居跡

埋設土器出土状況



上部に石を置いた埋設土器出土状況



今回の調査は、個人の牛舎関連施設工事に係る緊急調査として、実施したものであり、工事によって直接遺構に影響を及ぼす5,000㎡を対象に平成12年から平成14年の3か年計画で実施するものです。平成12年度は約1,500㎡を対象にして4月17日から同年8月31日の日程で調査を実施しました。調査は、重機を用いて表土を除去し、丹念に面整理、遺構確認精査の順序で進めたところ、縄文中期中葉期に属する竪穴住居跡等が重複して確認され、さらにその下層には縄文前期末葉から中期初頭の遺物、遺構も発見されました。

遺構は大半が縄文中期中葉に属するもので占められ、東北南部の年代区分による大木(だいぎ)8a式、大木8b式を主体としています。これらの遺構群について概要を述べてみます。

前頁の写真で示した大型住居跡が2棟確認されました。長さ23m、幅5.5mを測るもので、全体的な平面形状は楕円形をしています。もう1棟は長さ26m、幅8.6mをなすものでこれまでに台ノ上遺跡で確認したものではありません。

この他にも40棟が確認されており、平面形状は円形状及び楕円形を示すもので4m～6m前後の規模を有するものが多く、石組炉(写真参照)を持つものも認められ、また住居跡の近くには地面を掘り込んで土器を配置した埋設土器が6箇所見つかっています。この遺構は幼児用の埋葬施設とする考え方があります。表紙に示した深鉢形土器も埋設土器で底部を意図的に除去しています。

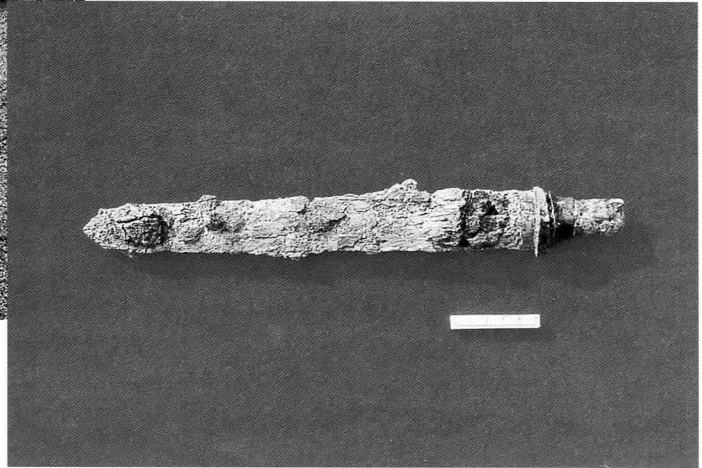
遺物は整理箱で約300箱を数える膨大な量で、4t車で2台分に相当します。最も多いのが土器で約260箱であり、この中には完形土器約130点も出土しています。他に土製品や石器、石製品、礫器があります。土製品のなかには42点の土偶が含まれており、前回の出土数を合計すると167点となり、本市出土数の九割を台ノ上遺跡出土で占められます。

今回の調査では新たに東北北部の円筒上層式の影響を持つ土器が出土しており、当地にも東北北部の文化が及んでいたことになり、縄文前期末から中期の成立や文化交流を考える上で重要な資料を提供したといえます。平成13、14年度も発掘調査が計画されており、次第に台ノ上遺跡の全容が明らかになると考えております。

成島古墳群 M1号墳の調査



古墳全景（前方から）



出土鉄剣

今回調査を実施した古墳はJR米坂線成島駅の南側に位置する丘陵の頂上に分布する古墳群で、通称御嶽堂山ミタケドウヤマと呼ばれています。

古墳は標高327.2mの山頂から北西の尾根にかけて、構築されており、山頂のM1号墳からM6号墳の6基が確認されています。M1号墳は全長60mの前方後円墳で平成3年に測量調査を実施しています。後円部の北東に隣接するM2号墳は13m×13mの方墳であり、M1号墳の陪塚（ばいちょう）、陪塚（ばいづか）と考えられます。他に円墳1基、方墳3基から構成される古墳群であり、広範囲に分布しているのが特徴です。

調査は成島古墳群の中で最大のM1号墳を対象としたもので、特に崩壊の著しい後円部の復元を目的としました。後円部の現況は多数の穴が点在しており、この穴は地元の話によると、松根油をとるため松の根を掘った結果できた穴であるといわれています。穴の深さは、最深で70cmを有し、長径は1m前後の規模でした。

古墳は測量調査から9年も時が流れ、雑木が茂る墳丘であったので、土地所有者の承諾を得て、雑木の除去から開始しましたが、この作業中に後円部の落葉の下から管玉2点、土師器片（はじきへん）が相次いで表採されました。この状況から判断して、主体部が表土から比較的浅い場所に構築されており、採集穴の一部がすでに主体部（遺体を埋葬した場所）まで到達しているのではないかと推測されます。また、遺物が散乱している状況から、盗掘ではなく、前述したようにここを古墳として認識せず採集を続行した結果と考えられます。

今回の調査によって、主体部と全長確認しましたが、主体部は前方後円墳の中軸線に沿って構築されたものであり、後円部墳頂のほぼ中央に構築していることが判明しました。

全長は測量調査で発表した60mと同じ結果であり、盛土は2m確認されました。有段については明確にすることができませんでしたが、三段構築の可能性が高いと思われます。

主体部は長さ8.78m、幅は1.3mを測り、割竹形木棺の痕跡が認められ、棺の規模は長さ8.4m、直径75cm、内部の空間は60cmの円形と想定されます。遺物は写真で示した鉄剣の他に管玉、鉄鏃（てつぞく）、鉞（やりかんな）が出土していますが、詳細については、平成13年度も調査を予定しているので、また後に紹介します。

昭和38年8月1日に、山形県の天然記念物に指定されたもので、根周り5m、地上1.2mでの幹周り4.1m、高さ10mの巨木です。

昨年度（11年度）は猿害によりほとんど芽吹きがなく、降雪期に猿が周期的に襲来していたと思われます。

このため、12年度は県の補助を得て、猿害防止対策事業として「猿害防止用電気ネットフェンス工事」を実施しました。これは、ネットに触れた猿を電気ショックにより追い払うものです。この結果、今冬は猿による被害はありませんでした。

来年度も樹勢回復策を講じるなど、保存管理に努めてまいります。

山形県指定天然記念物

山上の大クワ



猿よけの電気ネット設置

国指定史跡 米沢藩主上杉家墓所保存修理事業

上杉家初代 謙信廟

保存修理工事



米沢藩主上杉家墓所は、江戸時代大名墓所の代表的なものとして、昭和59年1月11日に国の史跡に指定されたもので、近年、廟屋等の傷みが著しくなってきたことから、平成3年度に、この史跡の適切な保存管理の方針を示す「保存管理計画」が策定されました。それに基づき、平成6年度から、国・県・市の補助を受けながら、歴代藩主の廟屋等の修理工事が実施されてきました。

平成12年度は、総事業費53,000千円で、上杉家初代謙信廟の修理工事が実施されました。工事は、謙信廟周囲の塀を一旦解体し、基壇の修理に着手しましたが、既存の擁壁では耐力が不足し、後年、基壇の孕（はらみ）出しや崩落のおそれがあるため、計画を変更し、鉄筋コンクリートT字型の擁壁で石積を支持する工法を採用しました。このため、廟屋の屋根工事や塀の漆喰塗り等は明年度に繰り延べ実施する予定です。

報告書紹介

米沢市教育委員会では、埋蔵文化財及び一般文化財の調査成果をまとめた、報告書を作成しておりますので紹介します。

【埋蔵文化財調査報告書】

欠番は在庫なし

○『桑山遺跡発掘調査報告書Ⅰ』 (水神前・柿の木・二タ俣B各遺跡)	第6集	¥4,000
○『桑山遺跡発掘調査報告書Ⅱ』 (八幡堂・二タ俣A各遺跡)	第8集	¥4,950
○『左沢遺跡発掘調査報告書』	第11集	¥1,500
○『法将寺遺跡発掘調査報告書』	第12集	¥1,040
○『白旗遺跡発掘調査報告書』	第13集	¥500
○『石垣町遺跡発掘調査報告書』	第16集	¥800
○『桑山遺跡発掘調査報告書Ⅲ』(大清水遺跡)	第17集	¥3,700
○『大浦A・C遺跡発掘調査報告書』	第18集	非売品
○『三の丸・生蓮寺遺跡発掘調査報告書』	第19集	¥1,170
○『比丘尼平遺跡発掘調査報告書』	第21集	¥950
○『遺跡詳細分布調査報告書』第1集	第23集	非売品
○『遺跡詳細分布調査報告書』第2集	第25集	非売品
○『遺跡詳細分布調査報告書』第3集	第27集	非売品
○『遺跡詳細分布調査報告書』第4集	第28集	非売品
○『遺跡詳細分布調査報告書』第5集	第32集	非売品
○『大浦C遺跡発掘調査報告書』	第33集	非売品
○『上新田A遺跡発掘調査報告書』第1集	第34集	非売品
○『一ノ坂遺跡発掘調査概報』第2集	第35集	非売品
○『大浦B遺跡発掘調査報告書』	第36集	非売品
○『遺跡詳細分布調査報告書』第6集	第37集	非売品
○『一ノ坂遺跡発掘調査概報』第3集	第38集	非売品
○『上新田A遺跡発掘調査報告書』第2集	第39集	非売品
○『一ノ坂遺跡発掘調査概報』第4集	第40集	非売品
○『矢子山城跡調査報告書』第1集	第41集	非売品
○『遺跡詳細分布調査報告書』第7集	第42集	非売品
○『塔ノ原遺跡発掘調査報告書』	第43集	¥1,200
○『米沢城跡発掘調査報告書』	第44集	¥1,300
○『直江石堤 谷地河原堤防測量調査報告書』	第45集	¥400
○『窪平遺跡第Ⅰ次・第Ⅱ次発掘調査報告書』	第46集	¥1,300
○『遺跡詳細分布調査報告書』第8集	第47集	非売品
○『一ノ坂遺跡発掘調査概報』第5集	第48集	非売品
○『矢子山城跡調査報告書』第2集	第49集	非売品
○『我妻館跡発掘調査報告書』	第50集	¥1,400
○『直江石堤発掘調査報告書』第2集	第51集	¥3,000
○『遺跡詳細分布調査報告書』第9集	第52集	非売品
○『一ノ坂遺跡発掘調査報告書』	第53集	非売品
○『遺跡詳細分布調査報告書』第10集	第54集	非売品
○『台ノ上遺跡発掘調査報告書』	第55集	非売品
○『金ヶ崎A遺跡発掘調査報告書』	第56集	¥1,280
○『大神窯跡』	第57集	¥2,830
○『東屋敷館跡発掘調査報告書』	第58集	¥1,390
○『大浦A遺跡発掘調査報告書』	第59集	¥990
○『米沢遺跡地図』	第60集	¥7,000
○『遺跡詳細分布調査報告書』第11集	第61集	非売品
○『大樽遺跡第2・3次発掘調査報告書』	第62集	¥2,600
○『上谷地D遺跡発掘調査報告書』	第63集	¥800
○『丸山日陰館跡発掘調査報告書』	第64集	¥1,000
○『遺跡詳細分布調査報告書』第12集	第65集	非売品
○『館山城跡測量調査報告書』	第66集	非売品

○『大浦B遺跡発掘調査報告書』	第67集	非売品
○『米沢城東二の丸跡発掘調査報告書』	第68集	¥2,600
○『遺跡詳細分布調査報告書』第13集	第69集	非売品
○『古志田東遺跡発掘調査概報』	第70集	¥1,050
○『大浦C遺跡発掘調査報告書』	第71集	非売品
○『遺跡詳細分布調査報告書』第13集(別冊)	第72集	非売品

【一般文化財調査報告書】

以下在庫なし

- 『米沢の民家』
- 『米沢の仏像』
- 『米沢の神社・小祠・石造物』
- 『南原地区芳泉町』
- 『置賜の登拝習俗用具及び行屋調査報告書』

平成12年度文化財関係事業

文化財の現状調査と基礎資料の整備

- ・「白猿」「白鳥」「ホタル」等調査
- ・特別天然記念物「カモシカ」の保護

保存管理の充実

- ・「上杉治憲敬師郊迎跡」(普門院・羽黒神社)
管理補助事業
- ・「史跡 米沢藩主上杉家墓所」管理補助事業
- ・「史跡 米沢藩主上杉家墓所」保存修理事業補助
- ・国宝紙本金地著色洛中洛外図保存修理事業
- ・県指定天然記念物「山上の大クワ」保存対策事業
- ・指定文化財の説明板整備
- ・ホタル生息地環境整備事業の補助
- ・古志田東遺跡土地購入
- ・龍師火帝石碑移転工事

全国史跡整備市町村協議会との連携

後継者育成の促進

- ・万世梓山獅子踊保存会への補助

埋蔵文化財の保護・啓発

- ・開発事業に伴う緊急発掘調査の実施
- ・平成12年9月6日古志田東遺跡国指定
- ・古志田東遺跡国指定記念シンポジウムの開催

発行 米沢市教育委員会

〒992-0012 米沢市金池三丁目1-55

(担当 文化課文化財係)

TEL 0238-22-5111